

2004年9月9日 福岡発、北京で乗り継いでウルムチ着

9月10日、朝早くホータンへ、9月17日までホータンで調査

9月18日、ウルムチ

9月19日、北京

9月20日、福岡着

【マシュラップ】若者、農民、年寄りのマシュラップがある。年寄りも宗教的だが、若者は自由。収穫後、小麦が豊作だと祝う。内容は宗教と関係がある、マシュラップは社会の発展、時代とともに変化する。マシュラップは団体ではなく、メルシャップという秘書がいて、どこでやるか、みんなに知らせる。マハッラ、郷、単位、ホータン地区の範囲でも行う。マシュラップに遅刻した、悪いことをしたら、イギットベシがリーダーとして罰を与える。罰金ではなく、冗談で犬の声、歌を歌う、蛇のようにくるくる回る、杏を食べさせる、などの罰を与える。みんなを笑わせる。イギットベシの選び方は、偉い人、尊敬する、学者、知識を持つ人などを選ぶ。人前でズボンを取らない、年上の女性に冗談を言わない、タバコを他人の前で吸わないなどの決まりを守り、結婚した若者だけが参加する。結婚しない若者はだめ。見るだけで参加できない。16-18歳で結婚する。

年寄りのマシュラップは、50歳以上。宗教的で、古い本をよむ、健康に良いことをする、歌や踊りもする。楽器もする。リズムがゆっくり。農民は収穫が終わったとき行う。畑でも、家でもいい、学校でもいい。する季節は、3月4月、緑が見える、春の季節。会社がスポンサーでマシュラップすることもある、1万人が集まって、バグチ郷でできたことがある。男も女もいく、男女がそこで知り合うことある。冬のマシュラップは年寄りが多く、ホータンの歴史、健康、薬について話す友達同士があつまる。いまでもメロンができたといっちは集まる。20日に一回、家を変えて、レストランでも、果樹園でもいい。同じ年の幼なじみが集まり、病気見舞い、葬式や結婚式にもいく、同じ考えの人だけであり、政治の話はしない。噂話もない。7時間ぐらい。費用はイギットベシがもつ。奥さんが得意な料理でもてなす。そこにきたら偉い人もみんな平等である。

今71歳、国民党時代に金持ち、ベグなどのするマシュラップにロブ県で参加した。その家の娘や、息子の結婚のときだった。牛、羊が出されそれを食べる、骨をとった人が次のマシュラップを行う。トック (骨)、若い牛の意味の最初のダンス、ダップの伴奏、ロバの毛皮をかぶる。70人ダンス、頭の上に水の入ったひょうたんをのせて踊る。12の星 (青天白日旗の12の光芒) —国民党のしるし、ランタンが中心にあった。踊るのは貧し

い人、見るのは金持ち。かれらはお金を投げる。ダップのつぎはラワープの演奏。

娘は踊りができない、ジュワンになったらよい。それがイスラムのルール。金持ちの病気のひとのための、薬のマシュラップ、1日1夜、病気の人でもダップをたたき、疲れてよく寝て、病気が良くなる、ピリ・ホンがダップをたたき、踊り続ける。止まらない。シャーマニズムでもある。オータクラーチ、多くの人が馬に乗り、羊を馬に持つ、冬に馬乗り。ジュワントイ、髪型を変える、マシュラップをする。自分はジュワントイをしなかった。中国になって、女性も学校に行き、政府もこのような習慣を良く思わない、都市部ではないが田舎ではしているところもある。49年以前、マシュラップは多かった。門で呼ぶ、捕まえられなかったら、その人がマシュラップを組織する、カーラックマシュラップ。バラアート、女性がクイマク（揚げパン）を墓地に持っていく。その2週間前、サラハートマをした、1つのキャンタ、1つのモスク、老人などがお金を集め、羊、牛を買い、その肉を配る、並んでコーランを読み、アラーにお願いをする、この年が豊作で水がたくさんありますようにと。政府が禁止して今はしていない。

マシュラップは山で羊の世話で忙しくできなかった。イスラムのきまりでマシュラップに参加しない人もいる。村でするマシュラップは100人、新疆全体で大きなマシュラップがあった。

**【ホータンの女性】**女性の考え方も発展してきた。教育も良くなった。県長などをする女性も出てきた。母も地区の副長や郷長をしてきた。女性の地位が上がった。あまり仕事の区別はない、家事、食事は女の仕事だが、社会に出れば違いはない。今では奥さんが忙しかったら、男が食事を作る。洗濯もする。女性が出産したら尊敬される。子供を最初に生んだときジュワンになる、きれいな服を着て、化粧する、母になる。グル（娘）からハン（王）に変わる、熟した女になる。子供を生むことは偉大なこと。子供ができないと離婚。女性も恥ずかしいと思う。子供は絆である。養子は、実子とおなじ、財産ももらえる。養子は、親戚からもらう。養子をあげたい、ほしいという要望をする。病院にいつてもらう場合もある。望まない子を妊娠した場合、実親がわからないようにしてあげる。お金も払う、男がほしい、女がほしいというのはない。結婚しないひとはホータンにはいない。イスラムの考えである。独身では嫌われる、回りから圧力がかかる、子供ができなくても結婚する。離婚して、再婚する。離婚後100日間隔を置く、誰の子かわからないから。結婚年齢は遅くなっている。イスラムは12歳、でも16歳でもよい。月経が始まったら結婚してよい。村では今でも16歳、法律は18歳から。でも18歳以前からしている。人口は増

えている。一人っ子政策はよくない。10 人生んでも元気である。

【吟遊詩人】 カルカッシのダスタンチ（叙事詩の語り部）、昔の戦争の叙事詩。歴史的叙事詩。社会的風刺などをラウップを弾きながら語る。エルマグマ、マッダアット（職業の名前）ともいう。12 歳から弾いている、父も同じ職業。おじいさんはタバコ屋さん。父とともにバザールに行つてダップをたたいていた、同じ職業は何人かいる、私がトップ。長いダスタンは父から、短いのは自分でつくったのがある。若いときは1 日中できたが、いまは伝統的なダスタンだけする。毛沢東の時代、1959 年北京、天安門で演奏。昔からダスタンはある。アブドラマン・パーディシャーの物語は2 時間かかる。トンガンと戦う物語、ウイグル人なら誰でも知っている、伝説の英雄。私の教え子は27 人、見込みがあるのは8 人。暗誦しているかどうか、バザールで試される。希望者は増えている、この家で教えることもある。教え子は18 歳から40 歳までいる。頭がいいのは1 年で終わる。バザールで1 日500 元稼げる、1000 人の聴衆がいることもある。この職業は男だけだが、孫娘に教えようと思う。

ムカムも12、メルグルも12、マシュラップも12 種類ある。いまでもマシュラップにいく。1 月に4、5 回ある、TV の取材もある。土曜日に、マシュラップを準備。金持ちのお宅です。3 つのダスタンをする。

9 つの主なダスタンがある、本にもなっている。本は教え子にやってしまった。①、カシュガルのシートノーチャ、清国と戦い死刑にされた英雄、読み書きはできないが。イリで蜂起、イリの県長にだまされた、カシュガルに行つて捕まる、読み書きができないので自分の死刑の書類をカシュガルにもってきた、人を信用しすぎる。弱い人の味方。②、アブドラマン・パーディシャー、自分の養子、イスマイルに殺される、養子は敵から馬の頭の大きさの黄金をもらう、ダスタンは悲しい物語が多い、聴いて泣く人もいる。③、イブタ・ナーマ ④、イマーム・ユサイミン、アラビアから来た英雄、イラクのカルバラで死んだ。外国から来た物語、⑤、キヤマット・ナーマ、地獄の恐ろしさ、暑い、汚い。いいことをすれば地獄に行かなくてすむように。⑥、コルバン・ナーマ、預言者イブラーイム、子イスマイル、羊の犠牲の起源、⑦、スルタンニ・バイス、預言者、父母の話を良く聴いて、勉強して、アウリア、人を超えた人になった。⑧、アッカシュ、父母の話をよく聴いて天国に行った人。⑨、ジャンナット・ドーザック、天国と地獄の争い。

チラの結婚式のマシュラップでは、冗談（チャクチャク）のダスタンをした。バザールでは悲しいダスタン、社会風刺が多い。お酒を飲む、スリをして刑務所にいった物語。

【人生儀礼】84歳の人に聞く。解放前、宗教学校で学んだ。校長、歌舞団の団長、後は郷長などを歴任。赤ちゃんが生まれたら、ムハンマドなど歴史で有名な人の名前、両親の名前などを考え、祖父母など、みんなで考える。父から名をもらう。悪い人からは取らない。2週間後でつける。アトイ（名づけの儀式）。仮の名をつけることはある。キチクカト（小さい名前）、生まれてすぐつける。70%はそのまま正式の名になる。子供がなくなったとき、天国で尋ねられたら困るから。いまでもする。習慣は変わっていない。悪い霊（セイタン）が入る、それで病気になる。赤ちゃんの葬式も大人と同じ。赤ちゃんの母方、父方から4つくらい名を出して、重なったらそれを選ぶ。アホンが来て、じゅうたんをひいて、赤ちゃんを寝かせて、ぐるぐるまいて、アホンが抱いて、アザン、神様が下さった名前です、いい人になりましょう、とナマズする。名前の時代変遷もある。イスラムの関係する名前は半分になった。男女の名前はまったく違う。ハンは女につける。村ではあだ名がある。家族でつける、仕事でつける。ロプ県ではアブドル・セイブン、洋服を縫う人、カシュラートはトラブルばかりのあだ名。女性の名前は結婚しても変わらない。難産で母子とも危険なときは、母を助ける。果樹園さえあれば、果物はいつでも収穫できる。

スナットイ、解放前はカリスがしたけど、みんなで祝いすることはない。近頃、お金を出して祝いするようになった。以前は家族だけ。ハテナトイは古い言い方、ハテナは切るという意味。スナイトイは近代的な言い方。ジュワントイも昔の言い方。熟したおかあさんと言ひ方。スナットイしない人もいる。ゆで卵を口に入れるのは、子供をだまして、泣かないようにするため。今から男になった、栄養があるから早く回復する。卵からの連想でたくさん子供ができるように。卵が睾丸に似ているという意味はない。20くらいの卵を食べる。私の奥さんも74歳になるがジュワントイはしていない。田舎ですることが多い、長い髪をしておしゃれにして、チャフレック、マシュラップなどの遊びをすることもある。女性にきれいな服を買ったらよい。今日から若い人ではない、お母さんになりましたという意味。おもに45歳くらいです。

ロプ県で誰かなくなったら、すぐ自分のところに知らせが来る。リーダーだから。遠いところだけが電話。どの範囲まで知らせるか、どのモスクですか。朝、きれいに洗って、男だけがモスクに集まる、女性は家に集まる。結婚式にはお金を持っていく、葬式では親戚など食べ物を持っていく。1週間続く。大きななべで食事を作る。3日目、7日目、20日目、40日目、1年目に供養をする。その人の経済によって、金をかけるか決める。親戚と近所の人が準備。女も男も食事の準備、専門の料理人を呼ぶ場合もある。女性は墓地で

の式には行かない。理由はモスクにもいかない理由と同じ。式の後で行く。イスラムのきまり。ナマズ（祈り）がくずれる。墓地の枯れ木は、葉の茂ったポプラを墓地の回りに挿したものである。墓の作り方は昔と同じ。家族は同じ墓。父母、子の3人が眠る。個人ごとに違う場所もある。子供だったら同じ場所でも良い。供養のとき砂糖、レンガ茶を持っていったが、今はお金が多い。葬式のときお金を清算する。葬式も結婚式もお金がかかるようになった。亡くなった人の善行、貧しい人を助けた、村に橋を作った。道路、学校をたてたなど、並べ立てて言う。すると天国に行ける。

**【結婚式】**昔、結婚は親が決めた。今は自分で探して親の承認を得る。身分より、二人が生活をうまくできるかで決める。イトコより少しはなれた血縁がよい。血縁はあまり近くないほうが良い。相手を決めるとき、男から女に代理を送る。だめなときもやわらかく断る。最初はキチクチャイ、代理だけ行く。チョンチャイ、親も行く。チャイはお茶ではなく、ご馳走という意味。チャイの儀式は女性が進めていく。キチクチャイは男の家、女の家それぞれで1回ずつ。今は一回で済ませる。男が試されることはあまりないが、この婿にイスラムの知識があるかどうか、以前は綿花つみができるか、礼儀が正しいかどうか、社会的面子があるか試され、女性も試される。ニカなしで結婚することはハラム（禁忌）。もののやり取りは今では少なくなった。昔は、女のほうから種30個、ぶどう30、ズボンなどを与え、男のほうからオスの羊を、家に結び付けて置いた、今は簡単、電気製品、時計、服など。おじいさんの墓参りをお互いにした。今はしない。村では火をまたぐことはしている。女性への礼儀でじゅうたんに乗せる。火を拝む拝火教の影響、風邪を引いたら火を頭にかざして退散させることもしている。悪い霊（セイタン）とわらの火で戦う。

ジュワン・トイは1人前のお母さんになる、責任が重い。ジュワントイを受けないで亡くなったら、罪になる。ロプ、チラ、ケリアなどの県では今でもある。市内ではない。結婚は子供ができないとだめ、子供ができないのは女に原因、アラーに子供のときから悪い人間だといわれる。運が良くない、子供を産まない女と結婚しても、男の仕事がはかどらない。家族のつながりが途切れるといわれている。男に原因があっても、検査せずに原因は女になることが多い。昔に比べるとマシュラップは減ってしまった。たくさん人が集まると、政治的良くないと政府から言われる。去年2万人のマシュラップが開かれた、政府側がイギットベシになって、お金をだした。このような形でないと開けない。早婚の原因はたくさん孫がいたほうが良い、1人でいると悪い道に走る。家族は多いほうが良い。

結婚式の前、キチクチャイを1ヶ月前にする、場所や日時を相談する、花嫁の家族が食

事を作る。贈り物、など同意する。結婚に同意する。花婿の家族は米などを持って来る。結婚式の朝、花婿の家にイマームが来て、ニカをする。カーペットに座る花嫁は今でも見ることはできる。レストランでするから今日はない。チラではすべて一緒にする。2つの家族が本当にうまくできるか。昔は1ヶ月後にした。家に入る前、火の回りを10回馬に乗って回る。火はシャーマニズム、自分の息子も家の前でじゅうたんに乗せた花嫁が火の回りを10回回った、古い習慣で火、樹、動物、月、太陽などを崇拝する。

**【ライフヒストリー】** 119歳、キタイ、ホイ、トンガン、イスラム、国民党、中国などの時代を経験した。トンガン時代、草の家に住んでいた。イスラムの時代は父が兵隊に参加した。トンガンについて兄はきついと言っていた。イミンアズラットがイスラム時代のホータンの統治者、あとは中国が支配、トルキアににげた。両親も自分ここで生まれた、ずっと農業。兄弟は70の妹がいるだけ。20歳で結婚、今は3番目の奥さん。奥さんはマタイトコ、親戚から見つけた、70歳になる。2人の息子、3人の娘。2番目の奥さんは3人の子供。マシュラップは座ってみていただけ。ジュワントイ、2番目の妻のときした、親戚、近隣をよんで、料理をして、音楽、踊りなどをした、奥さんに服をあげる。

マハッラは40-60の家族、マハッラの長(マハッラバシカ)、キャンタは4か5のマハッラからなる。共同作業は灌漑、水路、道路の建設、堤防、など義務。人民公社時代はマハッラが集合単位で、同じ食堂、同じ時間に起きて、共同で畑仕事に出かける。つらい時代だった。とうもろこしのパン、58年から62年まで、自分は小学生だった、1時間学校で授業して、昼は食堂で食べて、また学校に戻る。文化大革命のときは中学生、工場はとまり、大変な時代だった。

17年前メッカに行った、112歳、子供の頃覚えていることは、崑崙山脈で100頭の羊や、ヤク牛がいたことである。ここで生まれた。親も80歳でなくなった。母はそれより15年くらい早くなくなった、最初の妻は7人の子供、結婚は2回、25歳で結婚、妻は19歳。山だから遅い、親が選んだ、2番目の妻は50歳、娘の結婚は相手と話し合う、近隣で結婚。台湾、日本からTVが来た。いまの妻は孫娘と同じ年。年の差はかまわない。2番目の結婚では小さな式。1972年、文化大革命のころ、イマームも呼べない結婚式だった。90歳だった。昔の女性と今の女性の違いは今の奥さんが良い。

**【ウイグル語】** ウルムチとホータンの方言の違い、アルタイの古い言葉がホータンに残っている、山のほうには特に。標準語で話せない人はたくさんいる、ケリヤ、カルカッシ、ヤルカンドの3つの方言に分けることができる。政治の力で同じにするには長い時間がか

かる。50年代、60年代のホータン市内の方言はなくなりつつある。でも方言といっても同じ民族だから通じないということはない。標準語はホータン、カシュガル、トルファン、イリの方言を基にして作った。1940年代、新疆大学で議論された。近代化が進み、ウイグル語は基本は変わらないが、新しい言葉は増えている、コンピューテル、ケリ・アルゴ（洗濯機：汚れを取るもの）など。ウイグル語をローマ字表記にしたら、古い文化をあらわすことができない。昔から、文字、宗教がたびたび変わったが、それはウイグル人にとって損である、変わらない方がよい。アラビア文字でも近代化の妨げにならない。パソコンのウイグル語ソフトもある。ロシアの少数民族もローマ字化にされたことがある。今、中国の大学ではウイグル語ではなく、中国語で教育するようにしているが、それは政府からの命令で、ウイグル人を国際的にするには、どこでも通じる中国語を習得しなければならないといわれている。ウイグルの歴史はウイグル語で教えるが他は全部、中国語で教えている。私も今学期から中国語で教えている。学生は内容の2割はわからない。理科系の科目は何とかわかるが、地理などはわかりにくい。民考漢（ミンカオハン）は理解できるが、農民の子供はわかりにくい。中国語のクラスは効果がない。だが中国語は就職にとって必須である。600人ぐらいの卒業生を毎年出す、小中校の先生になるには、資格試験がある。60%が合格。中国語の試験もある。主にホータンで就職。20%がホータン出身、就職は自分の出身地に帰ることが多い。私も中国語ですべての講義を押し通すわけではない、ホータン方言になることもある。中国語は理解を難しくする。